

会議議事録

1 会議名	令和 6 年度 第 2 回阿賀町総合計画審議会				
2 開催日時	令和 6 年 10 月 31 日 (木) 午前 10 時 00 分 (終了 : 午前 12 時 00 分)				
3 開催場所	阿賀町公民館講堂				
4 出席者名	穴戸委員、横山委員、羽賀委員、田中委員、長谷川委員、清野委員、青木委員、齋藤准奈委員、石川英理香委員、廣瀬委員、渡部委員、野潟委員、猪俣委員、石川美智子委員、田実委員、石川千春委員				
5 議事	1) 「第 1 回審議会後意見シート」による審議会委員からの 主なご意見等について 2) 阿賀町人口ビジョンの検討について 3) 基調講演 演題 「人口減少対策の見方・考え方」 講師 新潟大学副学長・経済科学部教授 穴戸 邦久 様				
6 傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合は その理由	/	傍聴者数	無
7 審議の内容					
1.開会 事務局	<p>おはようございます。これより令和 6 年度第 2 回総合計画審議会を開催いたします。</p> <p>委員の皆様方には、お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。皆様にお配りしております次第に沿って進めさせていただきます。尚、本日の協議会は、議事録作成のため録音させていただきますので、あらかじめご了承くださいをお願いいたします。初めに、穴戸会長よりご挨拶を申し上げます。</p>				
2.会長あいさつ 会長(穴戸委員)	<p>改めまして皆様、おはようございます。本日、第 2 回を数えます審議会を開催いたしましたところ、皆様、時間を作ってくださいましてご出席くださいますこと、改めて感謝申し上げます。本日は次第にもございます通り、2本柱プラスアルファでございます。2本柱というのは、まず 1 つ目が、前回の審議会の後に委員の皆様から数多くの意見を頂戴しました。それに対します事務局からの回答といったことをご披露いたしたいと思っております。</p> <p>もう 1 本の柱は、阿賀町人口ビジョンの検討についてでございます。この総合計画を審議するにあたりまして基盤となる、背骨となるような、土台となるような町の将来人口をどのように推計していくのかという様々な見方、考え方、色んなデータを事務局から披露していただきます。</p> <p>プラスアルファというのは、次第の 3)にもございます。私から人口減少対策の見方・考え方と題しまして、私が学校で学生に話してるような内容を少し加味いたしまして、この見方だけが正しいというわけではございません。こんな見</p>				

<p>会長(宍戸委員)</p>	<p>方もある、こういう人口減少対策の仕方もあるとうことを、ひとつ皆様の考えるヒントを提供できればよろしいんじゃないかなということで、お時間を頂戴してお話いたす機会を設けさせていただきました。</p> <p>本日は、限られた時間ではございますが、皆様から忌憚のないご意見を賜れば幸いです。本日はよろしくお願いたします。</p>
<p>3.議事 1) 審議会委員からの主なご意見等について</p>	<p style="text-align: center;">配布資料・会議成立の確認</p>
<p>会長(宍戸委員)</p>	<p>それでは少しの間、議事進行を進めさせていただきますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは、まず次第の 1)について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(事務局より資料 1、2 に基づき説明)</p>
<p>会長(宍戸委員)</p>	<p>はい、どうもありがとうございました。ただいま事務局から資料 1 に基づきまして、委員の皆様からお寄せいただきましたご意見に対する回答ということで披露いたしましたところでございます。今回こういう取り組みが初めてということでございますので、委員の皆様におかれましても、満額回答かどうか別としても、町としては真摯に対応してくれたのかなというふうに思うところでございますがいかがでしょうか。ご意見やご質問などございますでしょうか。</p>
<p>田実委員</p>	<p>NPO 法人かわみなとの田実です。3 点ほど質問と意見があります。</p> <p>1 点目、「阿賀町から世界へ羽ばたく子どもたちを育てる」という 8 番のところについて、実際にどういうイメージをしているのかというところですか。私としては世界へ羽ばたく時に必ず必要になるのは言葉だと思っておりますが、例えば英語教育に注力することは施策として入っているのか、もちろん学校教育との関係になってくると思いますが、どういうお考えがあるのか教えて頂きたいです。</p> <p>2 点目が、16 番の「地域おこし協力隊による移住定住の促進」についてです。質問の中では、起業と定住と 2 つ書いてありますが、定住するには必ず仕事がないといけないと思いますので、起業の方が個人的には重要と考えております。この起業については現行、地域おこし協力隊起業支援補助金がありますが、これをいただくためにはきちんとした事業計画を立てなければなりません。この起業支援についてもう少し何かできないものかと思っております。先週まちづくり観光課の波田野係長と JICA（独立行政法人国際協力機構）関係者の方たちとオンラインで話し合う機会がありました。JICA もボーダレス・ジャパン株式会社というところと提携し、BLUE プロジェクトという起業支援のトレーニングを地域おこし協力隊向けに始めたということをお聞きしました。そういった起業支援の補助に</p>

田実委員	<p>注力していただけたらなと思います。</p> <p>それから最後、18番、19番あたりの数値目標についてです。私自身以前は開発途上国の開発プロジェクトに関わっていた経験がありまして、その中でプロジェクトを形成するときに必ず重要視していたのが因果関係です。この施策をやるどんな成果ができるかという因果を必ず確認します。もっと言うと、そのプロジェクトを作る段階から問題分析と言って、この問題がなぜ起きているのかという問題分析から入ります。その問題の因果関係が明確にならなければ、ひとつの問題を解決しても、その上の問題解決に繋がりません。因果関係をはっきりと確認しながら施策を決めていただくところには特に注意していただいて、今後検討していただければと思います。以上です。</p>
会長(穴戸委員)	<p>ありがとうございました。ただいま3つご意見という形で、2つ目、3つ目は意見として承りますが、1つ目は、「世界では羽ばたく」のなかで英語は入っているのかというご質問でございます。事務局分かりますか。</p>
事務局	<p>質問事項についてですけれども、項目 No.8、「阿賀町から世界へ羽ばたく」というところですが、後期基本計画を作成する時に、「ボートの町」を目指しております。ボート競技に特化したような形で作成された計画になっております。その時には、「世界で羽ばたく」なので、どうしても外国語が必要になるという考えもありますが、その時点ではボードの指導者を招致して、競技的なところで世界で羽ばたくというところで計画をさせていただいております。</p> <p>羽ばたくには必要となるものは何かということまで突き詰めて計画に盛り込んでいけたらと思いますのでよろしくお願いします。</p>
会長(穴戸委員)	<p>ありがとうございました。2番目の「起業支援」、3つ目として「因果関係を明確にせよ」はご意見として賜りたいと存じます。ありがとうございます。</p> <p>続けて委員の皆さんいかがでしょうか。それでは私から1ページ目のナンバー4の回答のところですね、ペレットについて「啓蒙普及に努めます」とありますが「啓蒙」は使わない方が良いと思います。「啓発」の方が良いと思います。以後お気を付けください。</p>
長谷川委員	<p>同じく4番の項目ですが、ペレットストーブについてです。使っても決して暖かいと言われません。そういう部分で今後これを普及させようというのも難があるのではないかと思います。全体的な形で、薪ストーブも含めて見直しをした方が良いのではないかと思います。どうでしょうか。提案です。</p>
会長(穴戸委員)	<p>具体的には、担当部署が今の長谷川委員のご意見を踏まえて、ペレットストーブに限定しないで薪ストーブも含めてやったらどうかというご意見を賜りました。ここは非常に専門的な分野でございますので、事務局では十分答えられない</p>

会長(宍戸委員)	<p>かもしれませんが、何かございますか。</p>
事務局	<p>ペレットストーブの導入した経緯ですが、元々は山林の間伐を促進しようということで始まった事業であります。その間伐によって出た木材を活用する、それをペレットとしてやる。それは温暖化にも繋がるし、森林整備にも繋がるというふうなところから始まった事業であります。</p> <p>委員の方からもありましたとおり、ペレットよりも薪ストーブは温かいという認識はありますが、森林整備を進めるにあたってどういうふうな方向でいくかというのは、今動いているようなところでもございますので、今後、新たなものとなるのかというところを考えていきたいと思っておりますので、お願いします。</p>
会長(宍戸委員)	<p>ありがとうございます。続けて、委員の皆様いかがでございましょうか。また審議会後意見シートもございますので、お気づきの点がございましたらお寄せいただければと思います。</p> <p>それでは、議事の 1)については以上といたしたいと思っております。それでは続きまして 2)阿賀町人口ビジョンの検討について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(事務局より資料 3 に基づき説明)</p>
会長(宍戸委員)	<p>ありがとうございました。ただ今資料 3 につきまして説明がございました。最後にも事務局から話しがございまして、年明けに次の総合計画における人口ビジョン、阿賀町としてどのように目標を立てるのかといったことの数字を事務局から出されることとなりますけれども、それに先立ちまして、委員の皆様にもこの人口、これまでどうだったのか、どんな推計をしたのかということ、あるいは今日現在どんな状況なのか。また国とか社人研の人口推計はどんなことを示しているのかといったことについて概要説明がございました。これから議論することとなりますが、この場で委員の皆様からご質問であったり、あるいは今後、人口目標たてるにあたってはこんなふうにしたらどうだなどございましたら、今この場でも結構ですし、また御うちに帰られてからでも結構でございますけど、意見承りたいと存じます。まず、この場で何かご質問も含め、何か委員の皆様からございますでしょうか。</p> <p>なかなか難しい、特に最後の方の財政指標は難しい言葉が並んでおったところでございますけど、私も地方財政にかかったものからすませれば、もっと頑張りましょうという印象です。</p> <p>それでは、大変恐縮ではございますけど、この後は私から人口減少対策、人口ビジョンをたてるというよりも、町としては、今はどの自治体も人口は減っていくというものは大方見込まれます。そのために自治体として何を対策講じるかという時の考え方、あるいはその見方というものをお話しいたしたく思います。</p>

<p>会長(宍戸委員)</p>	<p>これは冒頭でも申しましたが、考えるヒントでございますので、これ以外ないんだということは私は申しません。ただ、委員の皆様がそれぞれご意見をお持ちになるにあたって、こういう見方もあるということをお考えいただくきっかけになっていただければということで、本日お時間を頂戴してお話を申し上げる次第でございます。</p>
<p>3)基調講演 会長(宍戸委員)</p>	<p>(宍戸委員より資料「人口減少の見方・考え方」に基づき講演)</p> <p>それでは、わずかですけれども時間もございますので、いかがでございましょう、委員の皆様。只今、私からお話し差し上げたところでございますが、何か疑問点とか、あるいは私はこう考えるなどございますれば、ご発言お願いできますでしょうか。</p>
<p>田実委員</p>	<p>貴重なお話ありがとうございました。1番最初の国、県、市町村の関係は、おそらく市町村に住む我々1人1人がどれだけ国や県の施策を自分ごとにするか、ということの言い換えなのかなと思いついて聞いていました。</p> <p>人口減少の話はずっとしていただいたあとで恐縮ですが、私が考えているところを共有させていただければと思います。</p> <p>これまでの会議の中で出てきていないキーワードとして、「幸福度」というのがあります。阿賀町の総合計画を1次、2次と見させていただいて、個人的にはなぜかピンと来ませんでした。それはなぜかとずっと考えていたのですけれども、やはり主語が町だからなのかなと思いついていました。当然、町の総合計画なので、町が主語なのが当然だと思うのですが、そこに自分自身の気持ちとか、幸福度みたいなところが主語になっていないので、自分ごととして総合計画を捉えられないような感覚があって、ずっとモヤモヤしてきたところです。</p> <p>私も親がいわゆる団塊の世代で、高度経済成長を本当に支えてきてくださった世代だと思います。それによって、私も海外に行ったときに円高のおかげでお金がいっぱい使えるみたいな感じでその影響を大変享受してきました。じゃあ果たして、GDPも世界2位にもなったことがあるにも関わらず、経済成長を果たした後、日本はいったい何を指してきたのか、経済成長を果たした後何を目的に動いてきたのか、みたいなことはずっと私のなかでも疑問にあって、改めて幸せみたいな部分をもう少し考えられたらとずっと思っていました。</p> <p>私は以前ブータンという国の全国総合開発計画の策定プロジェクトに携わったことがあります。ブータンといえば幸せな国なんていうことを皆さんも聞いたことがあると思います。1970年代、王様が幸せについてもうちょっと考えていこうということで、当時世界では経済指標を政策の中心に考えていたところに、幸福度を取り入れていった国です。2008年には、国民総幸福委員会を設立し、国民の幸福度を国の政策の主軸に置きました。では日本ではというと、当然幸福</p>

田実委員	<p>度についていろんな研究がなされています。内閣府でもその幸福についての委員会が設けられて研究をしてきました。そこで改めて調べてみると、デジタル庁が「地域幸福度指標」というのを作って、実はもう日本の中でも85の自治体がそれを政策や施策に取り入れているということです。例えば秋田県仙北市については「日本で1番幸福度の高い地域にしよう」という目標を掲げています。兵庫県加古川市もこの政策をうまく活用しているということです。</p> <p>結局、目的と手段をしっかりと間違えないようにして計画・施策を実施していかなくちゃいけないと思います。人口減少対策、色々なことをやりますが、それって本当に何のためなのか、本質的に何を目指しているのか。私はこの町に住んでいる人それぞれが幸せに感じられるかどうかというのを1番の目的としていくべきじゃないかなと思っています。</p> <p>この地域幸福度指数は大きく分けると住みやすさと幸福度という2つを主に考えられています。客観的に住みやすいかどうか、それから主観的に住んでいる人たちが幸せに感じているかどうかです。阿賀町はデータが十分ではないと思うんですけども、この幸福度指数について町として施策に取り入れた、もしくは検討したことがあるのか、という質問と、今後取り入れる可能性はあるのか、お聞きしたいと思います。</p>
会長(穴戸委員)	<p>ありがとうございます。いかがですか。幸福度、幸せという観点から、町の方針といいましょうか。</p>
事務局	<p>幸福度の指標化につきましては、デジタル庁でも公表してる通り、「ウェルビーイング指標」と呼ばれてまして、事務局の方としても承知の方はしております。現行の総合計画では指標としては取り入れてないんですけども、例えば次期総合計画の中で、なかなか基本施策に数値目標としてそのウェルビーイング指標、幸福度みたいなのを入れるのはちょっと難しいのかもしれないんですけど、例えば基本構想の中で、将来像とか基本目標とかそういったところの数値目標のひとつとして幸福度指標を取り入れて、成果がどうだったのか、住民の人がどういうふうに感じているのかっていうのは取り入れられるものではないかというふうには今の段階では考えてます。その幸福度を測るその作業というものが工夫があるかとは思いますが、そういったところも研究しながら数値目標としてそのウェルビーイング指標を取り入れられるかどうかっていうのは今後検討していきたいと思っておりますし、積極的に導入していきたいというふうに考えております。</p>
会長(穴戸委員)	<p>どうもありがとうございます。国が示したから、それにすぐに乗るというのも考え方もかもしれませんが、やっぱり阿賀町にある考え方。例えばその幸せというのを客観的に数値化するのか、それとも抽象的でもいいから、それだったらむしろ基本構想とかそういったところに掲げるべきであると考えます。指標も2種</p>

<p>会長(宍戸委員)</p>	<p>類あると思っています。目標数値はこれにめがけて頑張るぞっていう目標値というもの。もう1つは体温計です。今日は体温計ったら36.5度だなあ、オッケーオッケー。今日測ったら37.2度、ちょっと体調悪いのかもしれないなというように、要は目標とはちょっと違います。2種類指標があつて、目標とするのか、それとも体温計の体温と見るのかっていうところで、議論が必要になってくると思います。特に主観的な幸福度と言われるものについては。いずれにしましても、田実委員からのご指摘としまして承らせていただきます。どうもありがとうございます。続けて委員の皆様いかがでしょうか。</p>
<p>猪俣委員</p>	<p>建設業協会の猪俣です。講演の中身につき、教えてください。講演の1番最後にありましたアルファとベータの考え方については、本当にその通りというか、自分自身でもごっちゃになっていることがあるなと思いながら聞かせていただきました。総合計画というものが、少なくとも10年というスパンの中で考えている中、10年という期間を長期というのか短期というのかは少し微妙なところですが、総合計画の中身を我々は議論していくなかでは、ベータのところを議論していくべきなのでしょうか。総合計画には、アルファの部分も関与はする部分があると思いますし、もう少し言うと、アルファとベータが混じることもあると思うのですが、今後この総合計画の中身を議論していく時には、基本的にはこのベータを中心に考えていくべきなのか、その辺りご指導をいただけないでしょうか。</p>
<p>会長(宍戸委員)</p>	<p>確かに他の自治体の総合計画なんか見てみますと、ベータ中心の計画が書いてありますので、どちらかというとなベータ中心になります。ですが、そのベータだけでも、やはり向こう8年、8年が長いか短いかは別として、8年っていうことを考えた場合、ベータだけではなくアルファもやるということで、両方載ると思います。アルファもベータも。ただし繰り返し注意しないといけないのは、1番気を付けなきゃいけないのは、ベータ対策をアルファでやっていないか。ベータ対策、今日明日の問題を解決するのに、アルファという中長期的な施策で解決しようとしていないか。そこは委員の皆様、ちょっとこれ違うんじゃないという目を、是非とも総合計画の案を作るときにはそういう視点でもチェックしていただきたいと思います。ということで、ちょっと今回はアルファとベータを使った次第です。どうもご指摘ありがとうございます。</p>
<p>清野委員</p>	<p>本日のテーマは人口減少対策というビジョンの話がありましたので、そこについてお話しさせていただきたいと思います。</p> <p>当然、総合計画を立てないと町が動けないという部分もあると思うんですが、その中で今日は人口減少対策という話であります。先ほど先生のお話のなかで、6ページですかね、18歳で町を出ていくのは仕方ない、子連れで帰ってきてもらえればというお話をされました。まさしくその通りだと思うんです。</p>

清野委員	<p>今まで、町もそうなんですけど、もちろん新潟県、国もそうなんでしょうけども、色々な少子化に対するいろんな取り組みとか、もちろん対策とかされてきていると思います。増えてるところはいいんでしょうけども、このような町とか自治体で、減ってるもの新潟県もはじめ多くあるわけですので、減るのはしょうがないと私は思います。今までも手をこまねいてきていたわけではなくて、色々やってるけども減っている。そういう考え方、生き方ですから、これはどうしようもない。であれば、どうやったら戻ってくるのか。ここに戻ってくる、またはここに移住、定住する、そういったところに力を、重きを置いた方が、減少の波は右肩下がりじゃなくて緩やかな線で行くと思うのかなと思います。減るのを増やすというのはなかなか大変でしょうけども、これから、最後の取りまとめ、まだまだありますでしょうけども、ここに移住定住対策を重きに捉えて計画を立てた方が、この人口減少対策に少しでも歯止めはかかるのではないかなというふうに思います。</p> <p>空き家に対する様々な補助は、新築ばかりではなくて、空き家に対してもされているところでもありますけども、さらに大きな手当といえますか、そういったものをつければ来られる方もいますので、ぜひご検討いただきたいなと思います。</p>
会長(宍戸委員)	<p>どうもありがとうございます。まだまだお話したいところがございますが、お約束した時間にだいぶ近づいてまいりましたので、繰り返しになりますが、審議会後意見シートを用意しておりますので、何かお気づきの点などございましたら、期日までご提出いただければ幸いです。それでは、以上の通り、本日用意いたしました議題は以上の通りとさせていただきます。</p> <p>では、この後、事務局からの事務連絡、お願いしたいと存じます。事務局、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございます。今日も色々なご意見等いただきまして、今後の審議会の運営、そして総合計画の策定というところに向けて、これまで以上に、皆様のご意見を伺いながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いします。本日は大変ありがとうございました。</p> <p>皆様から本日いただきましたご意見、また、本日宍戸会長よりご講演いただきました内容を踏まえて、基本構想案を次回お示ししたいと考えております。皆様のご指導とご助言を引き続きよろしくお願いいたします。尚、前回も配布しました審議会の意見シートにつきましては、11月13日ぐらいを目処にご提出をお願いいたします。また、第3回審議会の開催通知を本日皆様に配布しております。次回の会議につきましては、11月29日金曜日午後2時からこちらの会場で予定をしております。出欠報告につきましては、11月15日頃を目途にご報告をいただきたいと思っておりますが、もし本日ご提出いただける方がいらっしゃ</p>

事務局	<p>いましたらお受けいたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、会議冒頭でも説明しましたが、審議会の議事録につきましては後日、町のホームページで公表する予定となっております。</p> <p>公表前に、委員の皆様には議事録の確認作業をお願いしたいと思いますので、お手数おかけしますがよろしくお願いいたします。以上です。</p>
会長(穴戸委員)	<p>はい。ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、本日、第2回総合計画審議会を終了いたします。皆様、お疲れ様でございました。ありがとうございました。</p>